



カンボジアの子どもたちに教育を

2005年7月 No.14

アジア未来学校2周年報告会

もとカンボジア事務所所長 安田理裕

～目次～

アジア未来学校2周年報告会	
安田理裕	1
カンボジアの教育とアジア未来学校	3
ポット・リティ	3
平成16年度総会予告	5
一匹のアリとして	6
禹守根	6
修学旅行生来訪	7
スタッフ紹介	
フリーマーケット報告	8
事務連絡	

5月22日(日)に、「アジア未来学校2周年記念報告会」が開催されました。残念ながら、今回出席予定だったカンボジア事務局現ディレクターのポット・リティ氏は来られなくなってしまいました。2年間カンボジア事務局長を務めた安田からアジア未来学校2周年記念として、カンボジアの紹介、日韓アジア基金の活動の経過、およびその成果が報告されました。

紙面の都合上そのすべてを記載することはできませんが、報告会の内容を一部割愛して紹介します。

カンボジアはタイとベトナムの間にあり、面積は日本の2分の1、人口は10分の1です。国教は上座部仏教で、人口の8割が農業に従事する、いわゆる農村型社会と言えます。カンボジアの戦後の歴史は以下のとおりです。1953年にシアヌーク国王の下で独立しますが、中国の60年代の情勢に連動してカンボジア国内の経済状況が悪化し、内戦が勃発しました。皆さんもご存知とは思いますが、1975～79年には、ポル・ポト政権の下でクメール・ルージュ(いわゆるカンボジアの文化大革命)が起こり、とくに宗教や行政組織が否定されます。この間、100万人以上(当時の人口の7分の1とも言われる)が虐殺され、中学校の先生は8分の1に、小学校の先生は10分の1になりました。1979年にベトナム軍がカンボジアに侵攻しましたが、79年から91年の間は国内情勢が不安定なままでした。92年から2002年までの間にUNTACによる選挙など、数回の選挙が行われましたが、97年までは内戦状態が続きました。2004年夏に組閣された現内閣は人民党とフンシンペック党の連立政権です。

カンボジアの教育事情についてですが、成人(15歳以上)識字率は、68.7%です。就学率は9割と言われていますが、実際に学校に通っている子どもは6割くらいだと推定されています。2001年の調査では小学校6年生まで進級する児童は48%で、退学率や留年率が高いようです。この背景には、もちろん経済的な事情もありますが、留年率が高い中で子ども自身がかっこう悪いと思って退学するケースや、クメール・ルージュを体験した親の世代が、当時教育を否定されていたこともあり、教育に関心がないという事情もあるようです。

日韓アジア基金の活動の経過、および成果については、2003年3月にアジ

ア未来学校開校当初は、100名ぐらいの生徒がいました。1クラス25名で1日4回の授業(1回2時間)が行われていました。授業のカリキュラムは子どもたちの学力に合わせて実施しています。2003年10月には約15名、そして2004年10月には約50名が公立のルセイサン小学校へ行けるようになりました。現在は、45名ほどがアジア未来学校で勉強しています。わたくしは、アジア未来学校は、当初から目的としていた、子どもたちが公立の小学校へ行けるように育つための滑走路の役割を充分果たしていると喜んでおります。

カンボジアは、現在では、WTOに加盟したり、空港も立派になったりと発展していますが、明るい材料だけではありません。1日2ドル以下で生活している人の割合は、1990年で85%、2005年で78%で、他国と比較すると、インドネシアでは90年72%、05年45%、ラオスは90年88%、05年73%、中国は90年70%、05年32%となっています。また、カンボジアにおける退学率は、2003年が30%、2004年は35%と増加しています。

なお、今後は、カンボジアのローカルNGO「ポンロック・タマイ」がリティをディレクターとする体制でアジア未来学校を運営していくこととなります。今後ともご支援よろしく願いいたします。



松田事務局長の挨拶



2周年の報告をする安田君

追記 この報告会にはケーブルテレビ局の取材がありました。元NHKのキャスター藤田太寅さんが司会をつとめる番組の「私のセカンドステージ」のコーナーに、当基金の江本代表理事が取り上げられたからです。このコーナーは、定年退職した方々のその後の生き方を紹介するもので、全国のケーブルテレビ160局余りで放映されています。インタビューで江本さんは「在職中にインドネシアの水力発電所建設に7年間余り従事したこと、その時見聞きした貧しいアジアの子ども達のために、退職後少しでも力になりたいと思ったこと、禹さんの活動を知りその理念に共鳴してこの基金に参加したこと」などを話されました。

番組は、このインタビューに、報告会の模様やアジア未来学校の授業風景などを盛り込んで6分ほどにまとめられ、6月18日から全国で放映されましたが、さっそくテレビを見た福岡県の方から協力できることはないかという反響もありました。



カンボジアの教育とアジア未来学校

ごあいさつにかえてー

ポット・リティ

皆さん、わたくしはこれまで2年半にわたり日韓アジア基金カンボジア事務所でアジア未来学校の活動に携わってきましたポット・リティと申します。この度、アジア未来学校の運営は、日韓アジア基金カンボジア事務所から、新たに誕生する現地NGO、ポンロック・タマイ(新しい芽)の手に移ります。わたくしはその代表として、引き続き学校運営に関わっていくことになりました。

寺院での教育から学校の設立へ

カンボジアにおける教育は、従来寺院で行われていました。そこでは、クメール語、歴史、社会、倫理などが教えられ、カンボジアにおける寺院は伝統的に仏教の信仰の場以上の役割を果たしてきたと言えます。フランス植民地時代にもこのような寺院における教育は続けられ、1940年代には3年制でおこなわれていました。47年には、クメール語をアルファベット化しようとしたフランス政府に対する反対運動が起っています。53年の独立以降も、こうした寺院における教育は続けられていました。一方、いまのような学校が徐々に設置されはじめ、そうした学校では6年制がとられていきました。60～75年には徐々に教育制度が整い、12年制の教育が広まりはじめて、教育の質自体も東南アジアにおいて他のどの国にも引けを取らないレベルにありました。こうした背景には、12年制など独立後にもフランスの影響が強く残ったこと、また独立後、カンボジアが比較的安定した社会発展を遂げていたことが挙げられます。女子は家で家事を手伝うべきだという伝統的な考え方から、50年代までは女子が学校に行くことは稀でしたが、60年代以降は学校へ通う女子の数も大幅に増えたと言われています。

「暗黒の時代」

こうした状況が変わったのは、1975年から1979年までの「暗黒」の時代でした。この間、急進左翼のクメール・ルージュがカンボジアを支配し、市民を街から追い出して田舎へ送りました。活気のあった街は亡霊の街と化し、それまで築き上げられた教育制度もほぼ皆無になるほど大きく荒廃しました。学校は刑務所、武器庫、牛舎などとして使われ、寺院も処刑所などとして使われていたのです。その最たる例が、プノンペン市内に今も残るトゥールスレン博物館です。この博物館はその昔エリートを育てるリセ(フランス式の中等高等学校)でしたが、クメール・ルージュの時代には収容所として使われ、その記憶を留めるため今博物館になって当時の状況を伝えています。この時代、子どもたちは当然学校へ通うことはできず、強制的に農作業を強いられていました。クメール・ルージュのリーダーであるポル・ポト自身はフランスに留学して高い教育を受けた人間でしたが、かれやオンカーと呼ばれるクメール・ルージュ指導部は教育のない人間や子どもたちほどコントロールし易いことを知っていたのです。(訳者注：教

育のある人間はクメール・ルージュから敵視され、虐殺の対象となっていました。) 10 ~ 15 歳の子どもたちは武器を渡され、兵士になりました。オンカーはそうした子どもたちに人を殺すことを命じ、ときには自分の家族すらオンカーに歯向かう者として殺させたのです。

個人的な話になりますが、わたくしはその当時 10 歳で幸い兵士にならずに済みましたが、同じ世代の子どもたちと同じような惨めな暮らしを強いられていました。当時、わたくしが書けた文字は、母が教えてくれた自分の名前だけでした。

教育の崩壊から再生へ 非正規教育の実施

1979年、ベトナム軍の侵攻によりクメール・ルージュ政権は崩壊しましたが、先に述べましたとおり教育制度は崩壊しており、教育は新政府の最重要課題の1つとなったものの、そこからの復興は教室不足、教員不足、教科書不足など大きな問題を乗り越えなければならない非常に困難なものでした。

復興当初、プノンペン市内には5年制の学校がいくつかあるだけでしたが、その後、徐々に全国に広がり始め、10年制にまで制度上は拡大していきました。こうした公立校は基本的には全ての子どもに開かれていましたが、実際はすべての子どもを教育できる規模ではありませんでしたし、クメール・ルージュ時代に教育から遠ざかってしまった人たちは、きちんとした教育を受ける機会には恵まれないまま仕事を始めてしまうのがほとんどでした。こうした点から、政府は非正規教育(訳者注:「ノン・フォーマル・エデュケーション」の和訳。公立小学校、中学校などで行われる正規教育と対をなすもので、具体的には職業訓練、識字教育などを指すことば。)の実施という方針を打ち出しました。教育を受けないまま仕事を始めてしまった人たちは、仕事の後などにこうした非正規教育の識字学校の授業へ通うようになったのです。この制度は国中に広がり、多くの人々が識字学校へ通いました。わたくしもそんな学校に通った人間の1人で、昼は生徒、夜は下のレベルの生徒を教える教師をしていました。この制度は80年度に入り一旦終わりましたが、90年代にはまた再開されました。

このような過去を振り返って、わたくしは現在カンボジアにとっても最も必要なものは教育だと思います。多くの国が第二次世界大戦で多くの被害を被り、その後復興を遂げてきましたが、やはりそこでも重要な鍵となったのが人材の育成であったと思います。わたくしが留学していたロシアや、日本、韓国もそのような国の代表だと思います。これらの国においては、人を育てることが国の重要政策となり、その結果復興を遂げてきたのではないのでしょうか?

教育の重要性と皆さまへの感謝

クメール・ルージュ政権が崩壊してから、ある程度の状況までに復興するのに20年という歳月を要しました。(訳者注:クメール・ルージュ政権崩壊後も安定政権は生まれず90年代まで内戦が続きました。また、知識層が虐殺の対象になったこと、生き残った者も難民として海外へ出たことから、深刻な教師不足がありました。)しかし、残念なことにカンボジアは未だ貧しい国で、社会はいまだに大きな不安定要素を抱えています。海外からの支援を受けて公教育の復興

が進められてきましたが、未だにすべての子どもたちに教育の機会があるという状況からほど遠いものです。こうした状況の中で、カンボジアがしっかりと自立できる国になるためには、まだまだ教育が重要な役割を担っているのです。

こうしたカンボジアの歴史、そして個人的な生い立ちを考えたとき、私が日韓アジア基金 / ポンロック・タマイのアジア未来学校において、自分のこれまでの経験を生かし、カンボジアの教育に微力ながら貢献できることは非常に光栄だと感じます。開校から2年を過ぎ、これまで多くの子どもたちが未来学校で学び、そしてルセイサン小学校へと旅立って行きました。この結果を私はとても嬉しく思っています。かれらが自分たちの可能性を信じ、行けるところまで行って欲しいというのが、いまの私の願いです。

アジア未来学校の成果を語るときに忘れてはならないことは、こうした素晴らしい結果の背後には日本、そして韓国の支援者の皆さまの存在があるということです。皆さまの暖かいご支援なしには、この子どもたちが学校へ通うことはなかったことを考えると、皆さまのご支援の意義はとても大きなものだと感じます。アンロンコン・タマイ村の住民に代わり、カンボジア国民の1人として、そして子ども時代に教育で苦労させられた人間の1人として、あらためまして日韓の支援者の皆さま、そして日韓のスタッフの皆さまに感謝の意を述べたいと思います。信じて下さい。この学校がこの村の人々にとって持つ意味はとても大きなものなのです。

補足的にわたくし個人に関する話をさせていただこうと思います。わたくしは1969年、プノンペン郊外で生まれました。クメール・ルージュから解放された79年に学校に入り、87年に高校を卒業、その後ソ連に留学して94年に大学を卒業しました。ソ連では機械工学、特に食品産業機器について学び修士号を取得しました。この度、わたくしを日本にお招きいただき、日程調整など尽力いただきました日韓アジア基金日本事務局スタッフの皆さまに、厚くお礼申し上げます。今回は書類上の都合で報告会に参加できませんでしたが、いつか支援者の皆さま、そして日本事務局スタッフにお会いできることを、そして日本という美しい国を訪れることを心から強く望んでおります。最後にもう一度、日韓の支援者とスタッフの皆さまに心からお礼申し上げます。

オークン・チュラウン（ありがとうございます）。 （原文英語 訳：安田）

年次総会予告

9月18日(日)午後1時より東京文京区のアジア文化会館で、平成16年度総会を開催致します。活動会員の方はもちろん、賛助会員の方も出席・発言できますのでご参加下さい。

また、総会后、「カンボジアの教育の現状と日韓アジア基金のできること(仮題)」について、討論会を予定しておりますので、是非ご参加下さい。

一匹のアリとして

上海より 禹守根（ウスゲン）

みなさん、今日は。日韓アジア基金のウスゲンです。

わたしが中国の上海に来てから、もう1年になります。本当に時の経つのは矢のように速いですね。たとえ体は遠く離れていても、気持だけはいつもみなさんと一緒に喜怒哀楽を分け合っていることを忘れないで下さい。

前にも言いましたように、わたしはみなさんの活動を思い浮かべるとき、いつも「アリ」が思い出されます。一匹一匹は小さく弱く、取るに足りないアリたち。でもそのアリの力はどんなに偉大であることか！小さくても互いに違ったわざと力を合わせて、共同の目標のために黙々と精進するアリの姿、このようなアリの協同心と勤勉さ、誠実さがあるために、アリは他の生命体が考えもつかないような大事業を成し遂げることができるのではないか？わたしはまさにこのようなアリの偉大さを、みなさんの姿の中に感じるのです。

多くの人が参加したいと思っているボランティア活動ですが、いざはじめてみると、実際には続けていくことがたやすくはない無報酬の純粋な奉仕活動……。韓国のことわざに「はじめることが半分」というのがあります。何事もはじめることは難しく、ひとたびはじめさえすれば半分はできたのと同じだという、はじめることの大切さを強調したことです。けれどもボランティア活動は、それには当てはまらないようです。はじめることも大事ですが、もっと大事なものは、必要な時期まで活動を続けることだからです。

わたしはみなさんに申し訳ないし、有り難いと思うばかりです。考えてみれば、はじめたのはわたしでも、その後みなさんの参加と助けがなかったら……。そして時には、自分の仕事さえ確立できていないわたしとしては、ひょっとすると無謀なことだったかも知れないという気がすることもあります。

けれども最近は考えが変わりました。たとえわたしがまだ自分の生活基盤さえ持てない状態であっても、それでもみなさんがいらっしゃって、アジア未来学校の生徒たちが未来を築いて行けているからです。もしわたしが自分の仕事を果た上ではじめようと考えたとしたら、いまの日韓アジア基金とカンボジアのアジア未来学校は永遠に生まれなかったかも知れないからです。

わたしは約3年間の予定で上海の大学に来ています。もちろん一日も早く自分の基盤を整えてわたしたちの日韓アジア基金の活動に積極的に参加したいと思いますが、いまのわたしというアリができることは、ここでみなさんたちの姿を中国人に伝えながら、新しいアリを得ることではないかと思えます。中国のアリたちがその視野をもう少し広げて、より大きな共同体の中で、わたしたちあるいは他のアリたちと息を合わせるとき、日韓アジア基金が目指している「日韓の壁を越えてアジアの平和に寄与すること」に、多少なりとも助けになるのではないかと思いながら、中国での日々を過ごしています。

小さな力を合わせて大きな力を発揮しているわたしたちアリたちが明るい笑みを浮かべられる日を願いつつ、乱筆を終わらせていただきます。

みなさんお元気で。

ウスゲン拝。

（原文韓国語 訳：波多野）

修学旅行生来訪

5月25日、愛知県小牧市立小牧西中学校3年1組の中学生6名が当基金に来訪しました。小牧西中学校では、「地域社会への貢献活動を探索し、その活動に参加している人たちの生き方・考え方を学ぶ」というテーマのもと、修学旅行の一環として取材活動を行っているそうです。6名の皆さんは、事前に当基金に取材活動の申し出を行い、さらにたくさんの質問事項をまとめてEメールで送付してくれました。



小牧市立小牧西中学の皆さん

訪問当日は、朝早くからアジア文化会館を訪れて、2時間にわたって、日韓アジア基金の説明を熱心に聞き、「なぜ、カンボジアに学校を建てようと思ったのか?」、「どれくらいの人々が学校を建てるのに協力したのか?」など、たくさんの質問をしてくれました。また、アジア未来学校の開校の様子、子どもたちの授業風景のビデオに興味深く見入っている様子でした。修学旅行後は、学年内発表会を行い、その後ボランティア活動学習会、ボランティア活動の実践をして、学校の文化祭で実践報告会をするそうです。

今回の訪問を通して、ぜひ国際協力やNPO活動に関心を持って、今後も多くのことを積極的に学んで欲しいと思います。

スタッフ紹介

会員みなさま、こんにちは！ ジュニアスタッフの渡部友里恵です。今年4月、無事大学に入学することができ、日韓アジア基金の活動に復帰しました。どうぞよろしくお願いいたします！ 日韓アジア基金との出会いは、日韓共催サッカーワールドカップがおこなわれた2002年でした。この年、両国はかつてないほど熱く声援を送りあったことを、私は今でも鮮明に覚えています。同時に、私は知らないにひとしいほど無関心だった日韓の歴史の壁を考えるようになりました。

そんな時、NHKで日韓アジア基金の活動が紹介されたのです。

韓国に興味を持ち始めた私の中に、日韓アジア基金は強い印象を残しました。私は、日本人と韓国人が協力して、自分たちが住む“アジア”を支援していけたら...こんなに嬉しいことってない!と思いました。そして今、スタッフとしてここにいます。大学生になり、毎日、常に新しい出会いがあり、そして新たに広がる視野、発見があります。さまざまな刺激の中で、私は“教育”というものを改めて考えているところです。世界で教育を求める人々が望んでいることは? 今、私が彼らにしてあげられることは? 日韓アジア基金が行っている活動が、カンボジアの子どもたちの可能性ある未来への第一歩! になっていると信じています。

渡部友里恵



(「韓国の暮らしあれこれ」は紙面の都合上、休ませさせていただきました。)

フリーマーケットの報告とお願い

ジュニアスタッフ有志

5月28日(土)、7月17日(日)に、明治公園で開催されたフリーマーケットに参加しました。両日とも好天に恵まれ、多くの商品を販売することができました。売上金は5月は35,231円、7月は24,230円でした。

この売上金は全額基金に寄付し、カンボジアの子どもたちのために活用します。商品をご提供下さった皆さまに厚く御礼申し上げます。

次回は10月に予定しております。下記のものをごございましたら、ご協力ください。

未使用品：タオルセット・シーツ・カバー類

使用済みも可：冬物衣類(できればコート・上着類)・バッグ・雑貨小物

上記以外は、出店規則に触れる恐れがあることと、取り扱い上の問題のため、勝手ではございますが遠慮させていただきます。ご送付くださる方は、「フリーマーケット商品」と明記の上、以下のあて先までお送りください。

期限は9月30日までとさせていただきます。

誠に申し訳ございませんが、送料はご負担頂きたく存じます。

〒156-0055 世田谷区船橋1-3-17 井内 和夫

電話 03-3429-8897

05年4月～6月に会費・ご寄付を下さった方(敬称略・別枠以外五十音順)

阿波根 東子	井戸端 裕子	大澤 龍	座間味 朝雄	瀧口 利章	中山 苞子	藤井 昌子	茂木 英世
荒川 晶子	植原 光子	小川 英	下里 裕美子	田中 節子	比嘉 房雄	増田 恒子	柳田 乃里
荒川 雄彦	内尾 亜津子	小原 勝子	神保 国男	千葉 真衣子	兵井 文子	松田 明美	山越 栄子
荒川 千恵子	海老原 周子	加来 明子	神保 朋子	中沢 茂久	福島 シゲ	松本 博一	米田 容子
荒川 未知	江本 哲也	金子 十三松	曾根 文子	中澤 泰一	福島 忠男	松本 昌慶	若宮 光子
井内 和夫	王 嶺	金 潤子	高橋 聡子	中村 節子	藤井 幸子	峯村 公雄	渡辺 京子

株式会社スリーエーネットワーク | 株式会社都市環境エンジニアリング

フリーマーケットの商品をご提供下さった方(敬称略・前号で報告抜け分を含む)

阿南 系代 | 高木 桂子

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員：年会費 5,000円(学生、未成年者 2,000円)
 賛助会員：年会費 1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)
 法人会員：年会費 1口10万円
 ご寄付：2,000円以上おいくらでも

郵便局振替口座番号
振込口座
 00180-2-25153
日韓アジア基金

活動会員：活動に積極的に参加いただける方

賛助会員：定期的にご支援いただける方

ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けいたします。

< お問合せ先 >

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2 12 13 アジア文化会館(ABK)内

Tel: 090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX: 03-3946-7599(ABK)

E-メール: iloveasia@ml-b7.infoseek.co.jp HP: http://www.iloveasiafund.com

このメールアドレスは当会のメーリングリストのもので、お名前、メールアドレス以外の個人情報は載せない様お願いします。